

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。伝説の深夜番組「カノッサの屈辱」でその名を世間に広め、「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



1月17日、プレゼンテーションにて



「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。茨城県選出の匠、木工・漆職人の中本晋さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、またくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏（建築家/東京大学教授）、生駒芳子氏（フッショナル・ジャーナリスト/アーティスト・プロデューサー）、下川一哉氏（意匠研究所）らをサポートメンバーに発足。

LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催・レクサス)は、日本各地で地域の独自性や伝統技術を生かして、新しいモノづくりの担い手に挑む「匠」を応援する。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。茨城県選出の匠、木工・漆職人の中本晋さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。茨城県選出の匠、木工・漆職人の中本晋さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

一本の木から削り出す 伝統文化を楽しむ道具

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。茨城県選出の匠、木工・漆職人の中本晋さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

一本の木から削り出す 伝統文化を楽しむ道具

中本晋 茨城/木工・漆職人



対話から始まる ひとひとの物語

茨城県代表として選出された木工・漆職人の中本さん（那珂市額田）の自宅兼工房は水戸市から、車で北に20分ほど走らせた場所に位置し、豊かな自然に囲まれている。工房は木材がふんだんに使われ木の香りがたよい、薪ストーブが設置され心地よいぬくもりに包まれている。

中本さんが木工の世界に入ったきっかけは、17歳のとき。仏壇店を経営していた父親から紹介された木工所でのアルバイトだった。体や手を動かして物を作ることに不思議な楽しさと高揚感を覚えたという中本さんは、職人の背中を見ていううちに、木工職人という仕事に興味を持ち、地元鳥取の高校卒業後、京都の大学で京指物、石川県でさらに木工や漆について学んだ。

結婚を機に、妻の出身地である茨城県に移住し、県内の木工所や家具販売員等、独立に向けて必要な技能を習得し、現在の工房を開業するに至っている。

プロジェクトはすべてオーダーメイドで、お客さんからの「こんなものを作ってほしい」という依頼を受け、実際に家具を使う人や、どのような環境で使用するのを見せるともらい、会話からのインスピレーションを大切にしながら求めているもののイメージを膨らませる。単に注文品を作るのではなく、その家庭のな



作業風景

かにいかに溶け込んでいくかを想像して作るため、部屋や他の家具とのバランス、家族の体格や身長などにも考慮し、材料選びやデザインなど、仕上げまでを一貫作業で行う。「作った家具やテーブルなどを使って、家族のみんながご飯を食べてくれる姿を想像するだけで、また創作意欲が湧き、その人の生活に少しでもゆとりや豊かさを感じてもらいたい」。修理も含め、お客さんと一生の付き合いが築かれていく。心を込めて家具を作り、感謝の言葉をいただいたときが、一番やりがいを感じることもできると語る。また家具の展示会に出品したり、地元の幼稚園で親子向けの木工教室を開催するなど木工の普及活動にも力を入れている。

茨城の特色を活かした プロダクトを発信

プロジェクトのコンセプトに賛同し、参加を決めてからは、地域の特色を活かし、高い感性と品質により、いつもの生活に驚きや感動をもたらすプロダクトとはなにかを必死で考える日々。テーマを決めて意味を考えて作り上げていくという過程は、中本さんにとって初心を思い出す時間だった。プロジェクト制作の中



エリア・コンサルティング



R I N Z A-りんざー 杉・漆仕上げ(溜塗)



中本 晋
茨城/木工・漆職人

1980年鳥取県生まれ。16歳の時父から紹介された木工所でアルバイトをし木工に興味を持つ。京都伝統工芸大学校指物科卒業。石川県立輪島漆芸技術研修所そ地科を3年間専攻。2006年茨城県に移住し、いくつもの木工所に勤務し、2011年に独立。展示会などはあまり行わず、オーダーメイドによる直接の制作依頼にて現在の「なかもく」に至る。茨城デザインセレクション2014選定。

LEXUS
NEW
TAKUMI
PROJECT



完成プロダクト「R I N Z A-りんざー」



方などが、お寺や茶室など日本の伝統文化を体験する場面で使ってもらいたいと思いをめぐらす。美しいフォルムにこだわったことで、普段は「輪挿し」などを置き飾り台など、インテリアとしても使うことができる。今回のプロジェクトに参加し、多くの人との出会いやアドバイスをもらい、かけがいのない経験がすることができた振り返る。何より、心の底から物づくりが好きなお仕事を再発見することができた。「今後は漆、和紙、木をベースに茨城の素材を発信し100年後にも残せるプロダクトに挑戦していきたい」と意気込みを語った。